

船岡小新聞

学校概要



【学校名】	八頭町立船岡小学校
【所在地】	八頭郡八頭町坂田11番地
【校長名】	岡崎 浩一
【児童数】	133人
【校訓】	夢 チャレンジ 敬愛
【合言葉】	元気にあいつ 本気でチャレンジ 心をこめてありがとう

沿革

平成29年4月	平成小学校・大江小学校・船岡小学校の3小学校が統合し、船岡小学校開校
令和元年10月	八頭町教育会小中合同研修会で道徳科の授業を公開
2年8月	鳥取県オリビック・パラーンビック教育推進校となる
4年4月	学校運営協議会設置
5年10月	時通通信社「教育奨励賞」努力賞受賞
6年10月	八頭町教育会公開学習



響き渡る歌声

2024年の6月11日と12月10日に体育館と竹の子ホールで「にこにこコンサート」が行われた。「にこにこコンサート」とは、児童が主体的に計画から運営までを担っている、長年続いている児童会行事の一つだ。

児童会 にこにこコンサート

12月のコンサートでは、それぞれの演奏者がクリスマスにちなんだ楽曲を披露し、大いに盛り上がった。6年生はサンタやトナカイの仮装をしてリコーダー奏を披露し、会場を盛り上げた。運営委員会の6年生は、準備は、とても大変だったけど頑張って学校を盛り上げることができたこと話しており、学校の盛り上がりを感じることができた。



5、6年生の歌声が体育館に響いた

船岡と神戸の絆

フレンドシップ交流



2024年9月30日に、船岡小でフレンドシップ交流が行われた。フレンドシップ交流とは、神戸市立駒ヶ林小(旧双葉小)との交流事業であり、戦時中からの船岡と神戸のつながりを交流を通して学ぶ機会となっており、船岡小の伝統になっている。

コロナ禍はリモートでの交流だったが、今年はフィールドワーク・交流給食などを行った。フィールドワークでは、児童疎開に関する場所に行き、船岡小の6年生児童が戦時中の様子などについて説明をした。因幡船岡駅や旧柳屋旅館、八頭町役場など、多くの場所を回ることができた。

フィールドワーク担当の津崎あかりさんは、自分たちも戦時中の船岡の人が、児童疎開に来た子どもたちを優しい気持ちで迎えていたことを知った。それを神戸の人に伝えられて良かった」と満足そうに話していた。この交流を通して、改めて「船岡と神戸の絆を知ることができた。

児童疎開時の様子を再現した劇を披露する児童



2024年11月9日、船岡小の体育館で、全校児童による学習発表会が行われた。この発表会は、一人一人の努力と成長を観客に届け、新しいことに気づき、今後の生活に生かしていくために行われた。

学習発表会

一人一人が成長

特に4年生は、道徳と社会、総合的な学習を関連させて、八頭町の偉人である安藤伊右衛門の功績を劇にした。セリフや振り付けなど表現を工夫して学んだことを伝え、観客を魅了した。6年生の横野夕莉さんは、「小学校生活最後の発表会だったので、同じ役の友達と工夫できることがないか話し合っ、思い出に残るように頑張りました」と話し、6年生にとって胸に刻まれる発表会になった。

みんなのアイドル「てんやまん」

みんながてんやまんのことが大好き！

船岡小には、「てんやまん」という学校のキャラクターがいる。このキャラクターは、船岡小の裏にある「天満山」をモチーフに作られたものだ。2019年度の6年生が制作したものであり、今でも校内のいろいろなイベントに参加している。12月のにこにこコンサートでは、クリスマス仕様の「てんやまん」が登場した。

6年生は「学校の良さがキャラクターになっていていい雰囲気だと思った。行事などで、てんやまんが出てきた時、全校が盛り上がり、いいと思う」と話しており、船岡小を語るうえで欠かせないキャラクターとなっている。



全校児童からも親しまれており、これからも大切にしていきたいキャラクターだ。

学年を超えた交流

遠足

2024年5月1日、6年生のリードで、全校遠足が行われた。全員が到着することができた。

学校から船岡竹林公園までの約3kmの距離を全員で歩いた。出発直後は皆の足取りは軽かったが、徐々にならなから「疲れた」とか「もう無理」とかの声が聞こえてきた。その姿を見た6年生が進んで荷物を持ち、手をおかして自己紹介ができた」と話しており、5、6年生の力で、みんなが楽しむことができた。



みんなの距離が近くなった1年生紹介

憧れの先輩の背中を追って

マラソン大会



晴天の中のスタート。はじめる笑顔です！

2024年10月14日、船岡小を会場に「森下広二杯八頭町マラソン大会」が行われた。このマラソン大会は、船岡小の校内マラソン大会も兼ねており、子どもたちにとっては本校OBである森下広二さんの偉業を肌で感じることもできる行事でもある。

当日は天候に恵まれ、最高のマラソン日和だった。下学年は2km、上学年は3kmと、「森下広二杯」を駆け抜けた。上学年の部では、6年生の4人の児童が大会の入賞を果たした。男子入賞の林桐士郎さんは「最初は校内で1位を取るのを目指したけど、走っているうちに表彰台に乗りたいたいの目標になり、頑張った」と語った。

マラソン大会終了後は、森下さんのお話を聞き、「小さい町でも、大きな目標を達成することができ。努力は裏切らない」と熱いメッセージをもらった。児童全員が完全燃焼のマラソン大会となった。

生き方に学ぶ

輝プロジェクト

船岡小では、毎年「輝プロジェクト」という学習が行われている。この学習は、スポーツや芸術などさまざまな分野で活躍されている方々を招いて、体験を通して生き方を学んでいく。今年は3人の方をお招きして、あきらめない心や夢に挑戦することなどを学んだ。2024年6月10日には落語家の桂勢朝さんが来校され、上・下学年に分かれて落語を聞いたり体験したりした。伝統的な大道芸である南京玉すだれを使った演目はすばらしく、長年磨き上げられた芸に衝撃を受けた。また、3人の



児童が「そばとうどんをすすまるね」を指導してもらった。音や動作を意識することで、落語家に近づけた気がした。話術だけではなく、芸を磨く心構えについて学ぶことができた。



同7月16日には、東京五輪の競泳男子平泳ぎ200mに出場した武良竜也さんが来校された。講演では、夢についてお話をされた。好きなことがきっかけで大きな夢を持つことができたことや夢を実現するために多くの人に助けられたことを基本に、「感謝すること」の大切さを伝えてくださった。この話を聞いて、改めていろいろな人に支えられていることに気付くことができたので、感謝の気持ちを伝えたいと感じることができた。



同11月29日、東京五輪・パリ五輪に出場した女子板飛び込みの三上紗也可さんが来校された。「失敗を恐れない挑戦」と題したお話では、三上さんの成功と失敗について詳しく知ることができた。その中でも「失敗しても、次につなげる」という言葉が心に残った。自分にも似たような経験があり、今頑張っていることに生かせると思った。子どもたちの質問にも分かりやすく答えくださり、全員にとって学び多き時間となった。

心を一つに

運動会

2024年5月19日、船岡小の運動会が校庭で開かれ、全校生徒132人と保護者、地域の方々が参加した。全校が4色のチームに分かれ、「132人チーム」に、いざチャレンジ！をテーマに、さまざまな競技や演目を全力で楽しんだ。今年は全部で14競技が行われ、異学年交流や保護者交流を兼ねた運動会となった。

6年生が作った新聞です